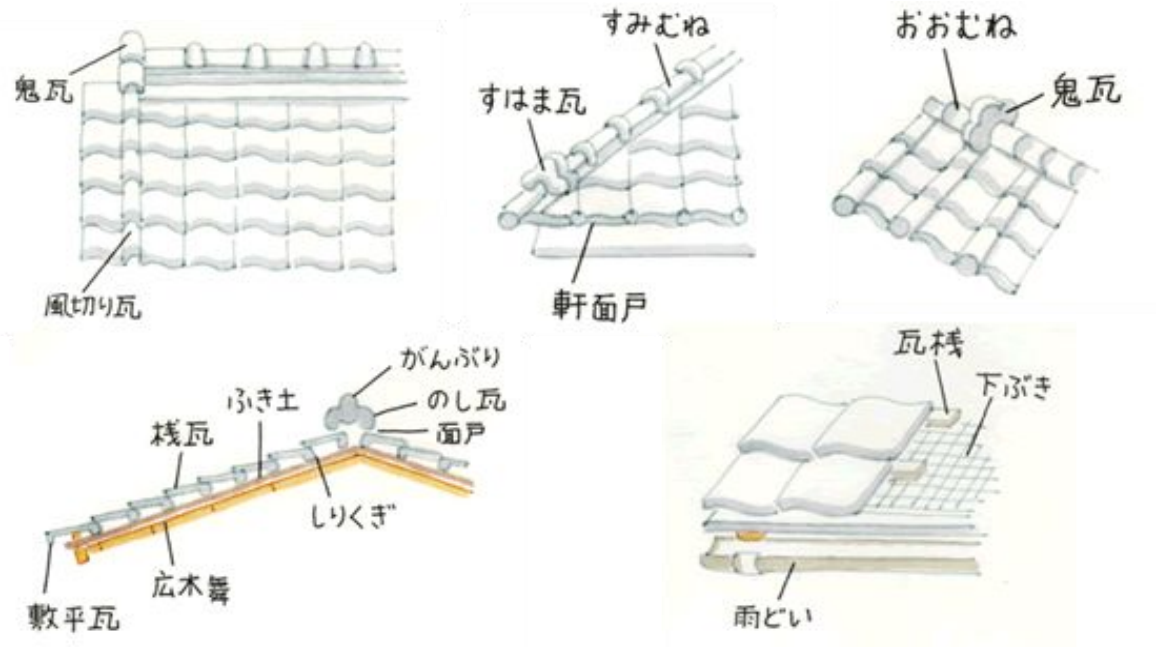
★屋根のメンテナンス

屋根は、雨･風･太陽の日差し･･･などから　住まいを守る大切なところです。
知らないうちに　雨もりができてしまって　そのまま放っておくと　家の内部が　腐食したりします。
台風や　風が強かった日のあとは、屋根を点検するように　心がけましょう。

●瓦屋根の構造

瓦屋根の構造は、瓦桟に瓦をひっかけた**「引っかけ桟ぶき」**の方法がとられています。
瓦下地材の上に　下ぶき(トントン葺き)＋ふき土･･･最近ではルーフィング材が使われるようになりました･･･をして、その上に　瓦を置く間隔に　瓦桟が　横打ちされます。
瓦は、この桟に　ひっかけて　並べています。
　※ルーフィング･･･フェルトにアスファルトをしみこませた防水材料。屋根葺(ふ)き下地などに用いる。アスファルトルーフィング。
瓦桟から　瓦がはずれたり、瓦が割れると　雨もりの原因になります。



●瓦屋根の構造

●瓦屋根は、台風や強風のあとや　屋根に上がったあとなどにも　瓦がずれることがあるので、日ごろから確認するように心がけましょう。
●古い瓦屋根は　桟部分が弱くなり、ずれが生じやすくなっています。破損箇所が見つかったら、屋根裏の腐食がはじまる前に　早急に補修をしましょう。

●瓦にヒビが入ったとき

小さなヒビ割れは、瓦補修用のパテで埋めるか、防水テープを　貼っておきます。

●瓦が　ずれたとき

引っかけ桟から瓦がはずれていると、すき間から雨水が入りこむので、下から押し上げるようにしてはめ込み、桟に引っかけます。瓦がずれた場所が　直しづらい位置の時は、パテやモルタルで埋め込みます。

●雨戸に　ヒビが　入ったとき

小さなヒビは、防水スプレーを吹きかけておきます。大きなヒビは、パテで埋めておきます。

●瓦が割れたとき

瓦の少しぐらいの割れは、トタン板を利用して補修します。

1

瓦よりも大きめに　トタン板を裁断します。

2

瓦のすき間に、トタン板を差し込みます。
さらに、割れていた瓦にも　コーキング剤を充てんしておけば、万全です。

こうしておけば、1年くらいは雨もりを防ぐことができます。割れが酷いときは、新しいものと交換しましょう。

●割れや　ズレがないのに　雨もりするとき

壁と屋根のつながり部分や、屋根の谷間などをチェックしましょう。この部分には　雨水をふせぐために、瓦をふく前にトタン板をはっています。このトタン板が湿気でさびて、腐食していることがあるのです。さびを発見したら、トタン板や鉄板を使って、瓦が割れたときと同じ補修方法を使って、メンテナンスをしましょう。

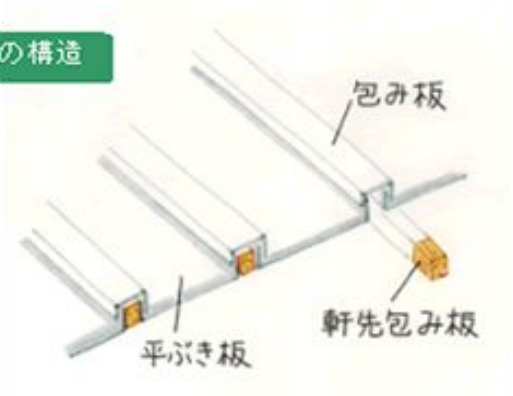
●雨もりの原因の探し方

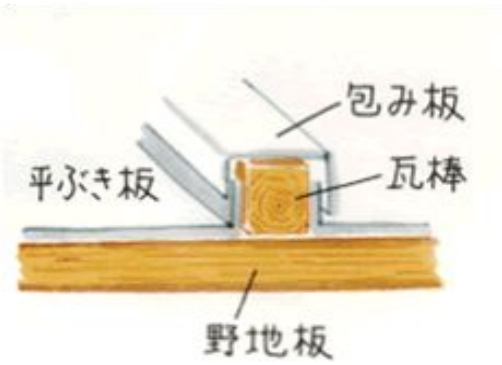
雨もりは、壁のシミや天井のシミを発見して　はじめて気がつくものです。
陸屋根は　別として、屋根には勾配がついているので、雨もりの箇所は　天井の真上とは限りません。
その位置よりも　約1mほど　はなれた場所に　雨もりの原因があると考えられます。
まず、押入れの天袋などから天井裏にあがり、シミ跡をたどって　雨もりの箇所をみつけます。
さらに　外に出て　屋根に上がり、瓦がずれている・割れている・・・などの原因を探し出します。
それぞれの原因に応じて　補修します。
しかし、雨もりの原因はわかりにくいことが多いので、プロに相談するほうが　いいかもしれません。

●トタン屋根の補修

●トタン屋根は、古くなると　表面に白い粉が浮き出し、塗装がはがれやすくなります。
●塗装がはがれると、サビができ、ひどくなると　板に穴があいてしまう原因になります。
●サビを発見したら、補修をして　雨もりを防ぎましょう。

トタン屋根の構造





●瓦棒から雨もりがする時

包み板と瓦棒のすき間は、通常1cm以上あるのですが、これが狭くなると　毛管現象で　雨水が　包み板の内部に流れ込みます。
包み板をとりはずし、形をととのえてから、間隔をあけて　打ち直します。

●さびの落とし方

トタン屋根の小さなサビは、ワイヤーブラシや　市販のサビ落としをつかいます。
サビをおとしたら、木片にサンドペーパーを巻いたものを使い、面をととのえます。
さらに　サビ止め塗料を塗り、その上に　サビ部分より　ひとまわり大きく切った　新しいトタンを接着します。
そのうえに、もとのトタン板と近い色で　塗装しましょう。